

キャラクター名
ホオズキ

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	フリーター
	ウロボロス					
オプション			年齢	26歳ぐらい	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	嫌悪	初期侵食率	39%	
出自	義理の両親	経験	秘密	邂逅	友人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	34
肉体	2	1	2			5	行動値	8
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	0	0			4	戦闘移動	13
社会	0	0	1			1	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
傍らに立つ影	P	N		
ツバキ	P 友情	N 悔悟		
保護された少女	P 誠意	N 不安		
狼谷 絢介	P 誠意	N 隔意		
○ベルタ=アスタ○ツテ	P 信頼	N 悔悟		
アギ二	P 有為	N 疎外感		
ジルファ	P 有為	N 憐憫		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセプト:ウロボロス	2	2	Xジャー			シンドローム		
効果: C値-Lv(下限7)								
原初の赤:インスタントボム	6	4	Xジャー	至近		白兵		
効果: 攻撃力+(Lv*2)の装甲無視白兵攻撃 武器加算不可								
幻想の色彩	2	4	効果参照	至近	自身	シンドローム		
効果: 原初の●と組み合わせて使用 射程を視界に シナリオLv回								
原初の紫:隆起する大地	1	3	オート	至近	範囲(選択)	自動		
効果: ダメージ-(1d+Lv*3) ラウンド1回								
雲散霧消	6	4	オート	至近	範囲(選択)	自動		
効果: エフェクトによるダメージ-(Lv*5) ラウンド1回								
傍らに立つ影:完全獣化	1	7	マイナ		自身	自動		
効果: シーン間、肉体判定D+(Lv+2) 素手以外使用不可								
原初の黒:インフェルノ	1	7	インフィ		単体		100	
効果: 対象を行動済みにする 対象変更不可 シーン1回								
禁じられし業	1	3	オート	視界	単体	自動		
効果: イージーエフェクトを打ち消す シナリオLv回								
影絵芝居	1		Xジャー	視界	シーン(選択)	自動		
効果: 任意の形の影を作り動かす。								
道化の出し物	1	1	オート	至近	自身	自動		
効果: 使用したエフェクトを他のエフェクトに偽装する								
イージーフェイカー:完全演技	1		Xジャー	至近	自身	自動		
効果: 顔つきや声を模倣する								

少し目つきが悪い青年。
性格もどこか消極的だが、気になったことについては行動力がある。

彼にはツバキという仲の良い双子がいた。
二人は幼馴染であるアヤメとも出合い、行動的なツバキに半ば付き合わされる形で行動していた。
それは学生になってからも変わらなかった。

だが、ある時に事件に巻き込まれてアヤメは視力を失い、ツバキとアヤメはオーヴァードとなったため3人はUGNに保護されることとなった。
ツバキと彼はアヤメを守るためにUGNエージェントとなり、オーヴァードではない彼は対オーヴァード用の装備を身に纏い、前線で戦うツバキやアヤメ、そして中間のUGNエージェント共に任務をこなした。

特に戦闘力が高いツバキは支部でもトップクラスの成績を誇る優秀なエージェントだった。
それに比べて彼はオーヴァードではないため平凡なエージェントだったが、ツバキの要望で彼とコンビを組み続けていた。

それからしばらく経ち、大事件が起きてツバキは任務の最中に力を暴走させてしまいその命を落としてしまう。
ツバキは死に際に力の一部を彼に託して、アヤメのことを頼むと言って静かに息を引き取った。
有望なエージェントが死んだことを知れば仲間たちが、ツバキが死んだことを知ればアヤメが悲しむと思った彼は、ツバキとして生きることにした。

ツバキが死んだことは当時の支部長など一部の人間しか知らなかったため、アヤメは恐らく気づいていなかっただろう、そう信じて生き続けた。
ツバキとなって生きることになった彼は誰にも見えないところで努力してツバキが掲げた正義とアヤメを守るために戦い続けたが、彼の周りにいた仲間は少しずつ命を落とすか、やがて守り抜くと誓ったアヤメも力を暴走させてしまったため、彼は彼女の命を奪った。